

# 米沢興讓館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール

平成30年3月16日(金)～19日(月)の4日間、第7回科学の甲子園全国大会が埼玉県のソニックシティ・サイデン化学アリーナを会場に開催された。全国47都道府県から予選大会を勝ち抜いた47チームとジュニア大会優勝チーム、総数367名が参加した。本校は山形県代表として4年連続4回目の出場となった。この大会は、筆記競技、実技競技①③の4つの競技で得点を競うものである。1チーム最大8名で構成され、その中から各競技にエントリーした代表者数名が競技に臨む。

この大会では競技の他にもたくさんプログラムが組み込まれおり、1日目にはスワップミートというご当地PRを行うものや、3日目にはフェアウエルパーティーという都道府県の枠を越えて交友を広げようというものもあった。生徒は各競技に真剣に挑むだけでなく、こういった他校生との交流も楽しんでくれたようである。

米沢興讓館チームは、全国大会出場決定後、県教委主催による4度にわたる強化講習会へ参加し本大会に臨んだ。大会では上位入賞することはできなかったが、生徒はお互いに知恵を出し合いながら善戦し、それぞれの競技でベストを尽くした。この大会で全国トップレベルの力を肌で感じるとともに、大会期間中の様々な場面での交流を通して、全国のライバル達と互いの健闘を讃え合い、友情を育んだ。本大会で得られた全国のライバルたちとのネットワークは、生徒達にとっては大会結果以上の収穫となったのではないだろうか。そのようなライバルが全国にいることを意識しながらより一層高みを目指して今後の学校生活に精進していつてもらいたい。さらに、その意識の向上を学校の仲間にも普及させてもらえば嬉しい。

本大会の参加に際しては、強化講習会等のコーディネートや大会期間中のご助言等をしてくださった県教委・県教育センター、競技に関わるご講義や様々な実践的ご指導をしてくださった山形大学の先生方、ご支援いただいた公益財団法人近野教育振興会の皆様には、本紙面にてあらためて感謝致します。

## 第7回 科学の甲子園全国大会

科学の世界を「歩く」  
2年2組男子

もし人間が歩くことをやめたらどうなるだろうか？もともと地球に道はなかった。しかし、我々生き物が「歩く」ことで道が拓けた。未開の地では、どの方向にどのように進んだらよいか、我々は考えなければならぬ。

科学の甲子園の全国大会は、高校生に未開の地を与えてくれる場だ。課せられる問題はどれも一筋縄ではいかず、自分たちで協力して解決しなければいけないものばかりだった。だが、それを通じて我々は「答え」と言う名の道を探し出すやりがいや楽しさを知ることができた。また、他校の選手にはそれぞれ個性のかつハイレベルな力や夢があり、交流を通して大いに刺激を受けることができた。

目的地にたどり着くには「歩く」ことが必要不可欠である。決まった道を進むのは非常につまらない。「歩く」考える」ことで初めて自分の進むべき「道」ができるのである。

